

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ KJUSUA ESPERANTO-LIGO, ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU

# La Movado

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ KJUSUA ESPERANTO-LIGO, ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU

## Fondita en 1951 N-ro 813 novembro 2018

komuna organo de:

KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ  
Sone-higasi 1-11-46-204, Toyonaka-si, Ôsaka-hu, 561-0802  
KJUSUA ESPERANTO-LIGO  
2-190, ŜISAIDO, TARAMI-ĈO, ISAHAYA-ŜI, NAGASAKI,  
859-0407, MORIWAKI Yasumasa

ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU  
Kannonmen 14-1, Kusiki, Kitanada-tyô, Naruto-si,  
Tokusima-ken, 771-0371, KITANI Tomoko

## Neesperantisto の “Jarlibro 2018” 拾い読み

佐々木 辰夫 (大阪府)

私の妻、安子(旧姓難波)の病気療養中、月々“La Movado”と“La Vento”(吹田エスペラント会機関誌)が送られてきています。その度に頁をめくって、面白そうなところを私が紹介して彼女に手渡す習慣を作っていました。私は腰を据えてそれらを叮嚀に読むことは、あまりしてこなかったのですが、今回、関西エスペラント連盟の“Jarlibro 2018”を読むと、関西エスペラント連盟の創設に至る経過とその歴史にかかわる部分が掲載されているので興味深く、活動に貢献した人たちの名前がしきりに登場するので、とても懐かしく思いました。たとえば「KLEG賞・奨学金受賞者記録」に登場する方たちの過半数は存じ上げるか、言葉をお互いに交わしたことがあります。

拙著『沖繩戦 — もうひとつの見方 宮本正男らの集団投降運動』(2012年刊)で、私は宮本さんとその周辺の人々の業績に目を通していたことが“Jarlibro”に馴染み易くしたのかも知れません。

その30頁から始まる「規定類 関西エスペラント連盟(KLEG)の沿革」の「<結成>1951年、第二次世界大戦中の沈黙を破って各地にエスぺラ

## ENHAVO

Neesperantisto の “Jarlibro 2018” 拾い読み	
..... 佐々木 辰夫 1-2	
楽しい作文教室 (87) .....	塚本 猛 3
Kajero Libervola: Indiferenteco .....	NONOMURA Yo 4
モバード俳句 (58) .....	広高 正昭 5
対訳: 源氏物語 第17帖 絵合 (5)	
.....	紫式部 / belmonto 6-7
自著を語る: Septembre, surstrate en Tokio .....	間宮 緑 8
Monda heredajo de Unesco .....	EGAWA Harukuni 9
書評: Antaŭ unu jarcento .....	伊藤 俊彦 10
佐々木安子さん追悼: EVAの活動、精力的に取り組む	
.....	矢吹 あさる 11
初心者のための語尾なし単語の使い方 (71)相川 節子	
Salono: お会いしたかったあの人 .....	西 千寿子 12
La Movado: 高知の Kleemann 夫妻、ロンドの活動、	
ザメンホフ祭予告ほか .....	12-13
Vortkruca enigmo / 作文教室成績 .....	14
Mikspoto / 作文教室課題 / KLEG 事務局だより .....	15
Kurantaj vortoj .....	15
編集ノート .....	16

ト会が発足、または再建されて運動が盛り上がりを見せ始めていたころ、私たちの関西エスペラント連盟が結成されました」から始まる叙述は落ち着いた文章ですが、希望と決意に満ちていて、ある種、厳かでもあります。<組織>のところでは、中央集権的な組織ではなく、「各人、各団体の自主性を損なうことなく、エスペラント文化の創設という共通の目的に向かって力を結集する方法として団体加盟の方法をとりました」とあります。

当時宮本さん、北さとりさんたちは戦前の政党組織や文化団体およびエスペラント運動の弱点や欠陥を考えぬいて、この文言に至ったのではないかと思います。

<事務所>の項で「当初の三畳間から木造二階建ての借家(1954年2月)」(31頁8行目)となっていますが、これは同37頁の「KLEG略年表」と符合させるべく、省略されているのでしょうか、『EVA50年の歩み』で、北さんがより詳しく書き残されています。

「扇町(大阪市北区)の私の家の2畳の部屋がエスペランティストの集まりの場所となり、1951年(京都)人文学園の夜間生の大工さん長尾(堅造)君の協力で2畳を4畳半ほどに拡張して宮本正男氏が詰めて関西エスペラント連盟が誕生した」とありま

す。さらに続けて「私は間もなく病気再発で入院することになり、私宅での事務は私が不在のため不便になり、中津に一軒を借りて関西エスペラント連盟の事務所とし……」これがその「1954年2月大阪市大淀区中津浜通りへ移転」ですね。

このあたりの推移については、私はワイフから何回か聞いていました。私はこの中津浜通りの事務所を訪れた記憶があります。

<共同作業>の項で、「エスペラントの運動の社会的復権をめざして先輩たちが最初に取り組んだのは、反戦・平和のための本をエスペラントに翻訳し、出版して国外にその実情を訴えることでした……。『原爆の子』、『基地の子』……などが共同翻訳され、出版されました。」しかし、『日本の貞操』の共同翻訳はEVAの立場から組織としてできなかったという一幕があったようです。再び北さんの記述では、「(EVA) 創立後、加わった会員の中から強硬な反対意見が出たため、有志の共同翻訳として実現することになった」とその一幕の説明があります。

<共同作業>のところで『日本の貞操』の共同翻訳について言及されていないのはやむを得ないことでしょう。しかし、俗に「先人の業績から学ぶ」というとき、こういう細かい積分のなかで学ぶのであって、あるひとつの傾向や概略によって学ぶことは学び方が違うように思っています。(ついでながら『EVA50年の歩み』で『日本の貞操』のエスペラント語化に対してアフリカとスウェーデンのエスペランティストの感想が寄せられています。戦争における女性の被害について、現在も沖縄や神奈川県で性犯罪として続発しています。『日本の貞操』の訳は貴重な先駆的な仕事であったと私は思います。)

最後に「エスペラントの社会的復権」について触れさせてください。

宮本さんは「EVA N-ro 49 1979年8月」(『EVA50年の歩み』170頁所収)に「戦争と平和」のタイトルで一文を書いておられます。

“きのう勤王、あしたは佐幕”という郡司次郎  
2018.11

正原作『侍ニッポン』の主題歌が全国を風靡したのは、1930年代の初めから中ごろにかけてであった。それは戦争に反対する勢力が壊滅的打撃を受け、その少なからぬ部分が、戦争に積極的に協力するという姿勢を打ち出していった中で生まれたニヒリズムの賛歌であった」で始まる僅か一頁足らずの実に短いエッセイですが、とても鋭く、挑発的な文章であると思います。このなかで宮本さんは「エスペラントは言語問題であるだけではなく、社会問題でもある、というザメンホフの言葉を肯定する以上、戦争と平和の問題を運動の根底に据えてかかるのは当然である……」と語られています。まさに当然ですね。私はワイフの言葉と行動によってしかエスペラントを理解できませんでしたが、宮本さんの言説は彼女の語り草でもありました。

「憲法擁護エスペランティストの会・エスペランティスト平和の会」などは別として、“La Movado”、“La Vento” および “Jarlibro” などの中の日本語を読む限りでは、もう少し強く「社会問題」に言及される紙面であっていいのではないかと、思いました。日本全体が「きのう勤王、あしたは佐幕」になりかけている今日この頃のことを考察すれば、尚更のことですね。

編集部より

『EVA50年の歩み』は頒価2000円、KLEGで取り扱っています。EVAはEsperanta Virina Asocioの略称です。

Jarlibro(年鑑)は関西エスペラント連盟の団体会員・個人会員に配布されている冊子で、販売はしていません。



1991年ザメンホフ祭後の忘年会にて 2列目右から2人目が佐々木安子さん



①猫は画面を眺めながら休んでいた。

【訳例 1】 Kato ripozis rigardante ekranon. (CA, ikona)

【訳例 2】 La kato ripozis rigardante la ekranon. (Celejo)

【訳例 3】 La kato ripozis vidante ekranon. (AG)  
休む：ripozi.

「画面」は、テレビかパソコンの画面だろうということで、ekrano が使えます。ekrano は、光や風などをささげるもので、ついたてや幕のことです。テレビのように、光を出して画像を表示する場合にも使えるのは面白いですね。

「眺める」は、遠くを見渡す、視線を移す、じっと見る、という意味です。rigardi (目を向ける、注視する) が使えます。この単語は、知覚しているかどうかより、視線が向いていることに重点をおいています。他に vidi (目にする、見える) も考えられますが、この場合、何の表示かを分かって見ている感じがします。

「休む」は、働きを一時止めて安らぐことです。ripozi (休養する、じっとしている) が使えます。ripozi は、動かないで静かにしている状態ですから、dormi (眠る) と同様に、死んだ状態を表現する用法もあります。

②画面上の何か猫の興味をひく。

【訳例 1】 Io sur la ekrano interesas la katon. (haveno, Ivajo, ikona, Fumi)

【訳例 2】 Io sur la ekrano altiris intereson de la kato. (AG)

(～に) 興味を抱かせる：interesi iun.

「画面上の」は、sur la ekrano と la を付加します。「何か」は、内容が不定、未知の物事なので、io (なにか) が使えます。sceno (場面、光景) を使った例がありましたが、少し違う感じがします。

「興味をひく」は interesi iun (～に関心を抱かせる) で表現できます。この場合の主語は人ではなく物事です。iu にあたるのは「猫」ですから、対格語尾を付けて katon にします。訳例 2 のように altiri ion (引き寄せる) を使う場合は、io にあたる La Movado 813

るのは「興味」ですから、intereson にします。

③猫は捕らえる目標を定める。

【訳例 1】 La kato fiksas la celon kapti. (Celejo) 解説

【訳例 2】 La kato decidas sian celon kaptotan. (AG)

【訳例 3】 La kato fiksas la celon, kiun ĝi kaptos. (ikona)

目標を定める：fiksi al si la celon.

「捕らえる」ですが、捕らえられるべき対象なので、kapti (捕らえる) を受動態の kaptota にします。「目標」は celo (標的) でいいでしょう。物体や抽象的対象を指す objekto だと、狙っている感じが無いと思います。他に、celo de kaptado (捕獲目標) や、celo kapti も考えられます。

「定める」には、fiksi ion (固定する)、decidi ion (決定する) が考えられます。fiksi は動かないように定めることですが、decidi は、熟慮の末にきっぱりと定めることです。decida (断固とした) や decidema (決断力のある)、decidota (未決の) などの用例があります。

訳例 1 ですが、fiksi には、付着させて動かなくするという意味があります。的をくっつける意味でないことをはっきりさせるために、al si を追加してはどうでしょう。用例に、la registaro fiksis al si la celon redukti ~ (政府は～を低減する目標を定めた) があります。

④急に画面上の何かをたたく。

【訳例 1】 Subite ĝi batas ion sur la ekrano. (T.Ku, CA, Celejo, haveno)

【訳例 2】 Ĝi subite batas ion sur la ekrano. (AG, Ivajo, ikona)

「急に」は、subite (突然) で表現できるでしょう。「画面上の何かを」のための対格語尾は、io だけに付加します。「たたく」は、繰り返して打つ、ぶつ、攻撃する等の意味です。frapi ion (軽く打つ)、bati ion (打つ) や ataki ion (攻撃する) が考えられます。bati は 1 回打つだけというわけではなく、-ad- 無しでも、反復動作の場合があります。bati ovojn (卵をかき混ぜる)、bati takton (拍子をとる)、batita kremo (ホイップクリーム) などの用例があります。

成績は p.14、新しい課題は p.15

多くの日本人は、目の前で起こっていることにさえ無関心である。それは人の命に関わることもある。希望がないからか？

NHK(Japana Elsendo-Asocio) elsendas programeron nomata *Ĉikju-raĝio*(radio terglobo), en kiu japanaj geknaboj, kiuj loĝas ekster Japanio, voĉlegas siajn verketojn propravoĉe pri impresaj aferoj. Ili ordinare raportas pri kuriozaj (por japanoj) kutimoj, moroj aŭ okazaĵoj en la lando, kie ili loĝas aŭ kien ili vizitis.

Tamen iun tagon mi aŭskultis raran raporton, en kiu japana knabo loĝanta en Ganao, parolis pri okazaĵo en Japanio.

La knabo vizitis la parkon *Oodoori* en Sapporo, kaj li rigardis scenon, en kiu junulo atakis maljunulon kuŝantan sur benko. Eble la maljunulo estas senhejma. La junulo batis kaj piedbatis lin. Miriga afero por li estis ke neniu el ĉirkaŭaj homoj helpis la maljunulon.

Li konsterniĝis pri indiferenteco de japanoj.

En Ganao, kie li vivas, kiam tia afero okazus, tuj homoj kolektiĝus ĉirkaŭe kaj ili intervenus inter koncernatojn.

La knabo demandis sin; kial? Li pensas ke en Japanio preskaŭ ĉiuj, ĉiam kaj ĉie, rigardas siajn saĝtelefonojn. Pro tio oni ne rimarkas tion, kio okazas ekster sia ekrano. Japanaj homoj en Parko *Oodoori* povus ignori la atakon ne sciante kio okazas apude.

La demando de la knabo pensigas min. Ĝi amplifiĝas en mi. Ni ofte evitas rilatadon kun nekonatoj.

Sed pri familiano, samgrupano ni klopodas sincere. Kiam natura kataklismo okazas, multaj volontuloj iras al la loko por helpi suferantojn nekonatajn.

Dum la lasta milito, ni legis en lernolibro kaj deklamis; "Japanio estas bona kaj forta ŝtato. Ĝi estas eminenta ŝtato brilanta en

la mondo". Kaj ankoraŭ nun ni aŭdas en amaskomunikiloj, ke Japanio estas admirinda kaj ĝi havas kvar sezonojn. Japana manĝaĵo estas eksterordinara. Ideala. Akceptema. Preskaŭ ĉiuj japanoj amemas sin mem kaj ignoras ne japanojn, ekz. laboristoj el eksterlando. Okaze de internacia sporta evento Japanoj ordinare kuraĝigas nur japanan teamon.

S-ro *Onaga*, forpasinta gubernatoro de Okinavo, vizitis Tokion por kontraŭi dislokigon de *Osprey* (novtipa milita aviadilo) en Okinavon, kaj manifestaciis en Tokio. Tiam rasistoj insultis la manifestaciantaron. S-ro *Onaga* poste diris, "Mi miris pri la indiferenteco de preterpasantaj japanoj." Ofte indiferenta sinteno de spektantoj efikas pli forte ol insultado aŭ perforto mem. Multaj japanoj estas indiferentaj al Okinavo.

Iam amiko mia rakontis pri *Oxfam* (fame konata Internacia Ne-Registara Organizo). Ĝi estis fondita per civitanoj en 1942 en *Oxford*, Britio, por savi malsategon, por helpi homojn suferantajn pro malsatego dum la milito. *Oxfam* proponis al la registaro, ke ĝi savu grekojn, kiuj estis malamikoj regataj de Germanio. *Oxfam* ne povis esti indiferenta al malamikaj homoj en malsatego.

Mia amiko ekhavis demandon, kial la civitanoj faris tion.

Pri seksa, potencula aŭ morala turmentoj multaj suferantoj plendas, sed oni kutime indiferentas. En lernejoj kaj laborejoj lernantoj kaj laboristoj sin mortigas pro molestado de kolegoj aŭ superuloj, tamen tio aperas post ilia morto. Dum kiam ili vivas oni ne agnoskas tion, oni indiferentas pri ĝi.

Ni ne rimarkas, ke ni ne rimarkas.

Ankoraŭ nun ni rondvizitas senhejmajn amikojn dufoje monate. Kiam novulo unuafoje partoprenas, ni demandas ŝian/lian impreson. Preskaŭ ĉiuj respondas, ke ĝis tiam ŝi/li timis, sed ke ili estas ordinaraj homoj kaj ŝi/li povis senĝene interparoli kun ili.

## Rondo Hajkista (58)

HIROTAKA Masaaki (広高 正昭)

新しい句集の紹介です。著者はブルガリアの女性詩人 Elena Popova さん。表題は "SERĈANTAJ ANIMOJ / Hajkoj" といい、A4 判 84 ページの冊子です。興味深いのはこれらの俳句のテーマが彼女が見た絵画から得た印象を取り扱っており、全部で 12 人の画家を取り上げています。大部分はブルガリアの画家ですが、中に歌川広重、葛飾北斎、アンリ・ルソーが含まれています。画家 1 人当たり 10 ~ 15 句で、全部で 140 句あります。広重と北斎についての句の日本語訳を頼まれてお手伝いしました。句集から私の気に入った句を二つ引用します。

Vilaĝo dormas  
sub la neĝaj lavangoj.  
Vintra fabelo.

Homo kaj arbo  
sopiras al ĉielo.  
Nur birdoj flugas.

絵画を題材とする着想がおもしろく、こういう俳句の作り方もあるのだなと思いました。

Ses legantoj kontribuis sume 17 hajkojn.  
Dankon al la kontribuintoj.

Venis sinsekve  
tajfunoj kaj sekeco —  
Sulkojn mi fosas (Takesi)

La kuranta jaro estas eksterordinare plena de naturaj katastrofoj. Kion oni povas fari en tia situacio?

Blanka domego  
detranĉas rektangule  
ĉielan bluan (Celejo)

Sensezona hajko, sed al mi estas sentebla la alta ĉielo aŭtuna. Komparu la trian version kun "altan ĉielon" (aŭtuna sezonvorto).

Jen en vilaĝo  
vakaj domoj dissemitaj.  
Miskantoj ondas. (Joŝi)\*

Soleca pejzaĝo de subloĝata vilaĝo en aŭtuno.

Diversaj fruktoj  
disfalis sur la vojo  
tajfunmatenon (Gruo)

La kunmetaĵo "tajfunmateno" ne sonas bele almenaŭ al mi. Sed ja estas unu el la solvoj.

Jen sin spegulas  
la Insulo Ĉikuba  
sur Lago Biŭa. (Yuko)\*

Simpla priskribo de bela pejzaĝo ne ĉiam donas belan impreson al legantoj. Indas pripensi, kiujn vortojn elekti por priskribo.

fiŝisto sola  
intermonta rivero  
kantas garolo (Snau)

Hajko kun tri sendependaj versoj ne estas eleganta kaj povas doni malprecizan komprenon al legantoj. Kunligu unuajn du versojn jene:

fiŝisto sola  
ĉe intermonta fluo —  
kantas garolo

Oni povas imagi pli klaran bildon. Garolo estas aŭtuna sezonvorto.

Je la fino mi prezentas mian pecon.  
klara flueto  
tra inter akvoplantoj —  
libelo flirtas

### 投稿案内 (2月号に掲載予定)

- temo (兼題)：自由題。冬の季語を詠みこむ。  
(複数投句の場合は無季句を含んでも可)
  - 郵送の場合：作品 (3句まで) とローマ字書きの筆名、住所氏名を記載。送り先は、〒832-0073 柳川市鍛冶屋町 39 広高正昭
  - 電子メールの場合：内容は郵送の場合と同じ。送り先は、hirotk-m@nifty.com
- 締切：いずれの場合も 11 月 30 日必着。

El “Rakontaro Genĝi”, 11-a jarcento

源氏物語 第 17 帖 総合 系あはせ

## We-Afase – Pentrajkonkuro (5)

*eljapanigis belmonto*

La bildojn pentris la fama pentristo *Kose-no-Afumi*, kaj la priskribon tuĉis *Ki-no-Turajuki*. La papero estis la reutiligita helgriza papero, subtenata de ĥinstila blanka teksaĵo, kaj la kovrilo estis ruĝpurpura, kaj la akso estis el palisandro, kiel la normala ornamo.

Ili komencis laŭdi sian rakonton.

“*Toŝikage* estis pelita de ŝtormaj ondoj kaj ventoj, kaj vagis ĝis la nekonata lando Persujo. Kaj la famo pri li disvastiĝis eĉ al la origine celita *Tang*-dinastio, kaj lia genia talento de koteludado estis vaste konata en kortegoj de la lando kaj la nia. La pentraĵoj rakontas Ĥinuĵojn kaj Japanuĵojn paralele, kies allogo estas senĉesa.”

La rakonto estis pentrita sur blanka papero kun blua kovrilo, kies akso havis flavajn buletojn. La pentristo estis *Asukabe-no-Tunenori*, kaj la mano estis de *Vono-no-Mitikaze*, la famaj modernaj artistoj. Iliaj manieroj estis nuntempaj, kaj tre brilaj al okuloj. La maldekstra grupo ne havis rezonon refuti.

La sekvanta komparo estis la ‘rakontaro *Ise*’ kun ‘*Ĵaŭsamvi*’<sup>1</sup>, kaj ankaŭ la venko kaj malvenko ne estis facile decidebla. La dekstra flanko montris gajan modernan atmosferon, kun rilatoj al la palaco, tre alloga por spekti. *Najŝi Fej* de la maldekstra grupo defendis *Ise*.

“Sen aprezi veran koron

De profunda maro *Ise*

Ĉu ni traktos ties ondon

Jam malnova senvalore?”

Ĉu ni malhonorigos la nomon de la ĉefrolulo *Narifira* en *Ise*, per tia lukse ornamita triviala amrakonto nuntempa?”

Ŝi ne povis pozitive argumenti. *Najŝi Dajni* de la dekstra grupo kritikis.

<sup>1</sup> la rakonto estas nun perdita.

絵は巨勢(こせの)相覧(あふみ)、手は紀(きの)貫之(つらゆき)書けり。紙屋紙(かむやがみ)に唐(から)の綺(き)を陪(はい)して、赤紫の表紙、紫檀(したん)の軸、世の常のよそひなり。

「俊蔭は、激しき浪風におぼほれ、知らぬ国に放たれしかど、なほさして行きける方(かた)の心ざしもかなひて、つひに他(ひと)の朝廷(みかど)にもわが国にもありがたき才(ざえ)のほどを弘(ひろ)め、名を残しける古き心をいふに、絵のさまざま唐土(もろこし)と日本(ひのもと)とを取り並べて、おもしろきことどもなほ並びなし」

と言ふ。白き色紙(しきし)、青き表紙、黄なる玉の軸なり。絵は常則(つねのり)、手は道風(みちかぜ)なれば、今めかしうをかしげに、目も輝くまで見ゆ。左はそのことわりなし。

次に伊勢(いせ)物語に、正三位(じょうさむゐ)を合はせて、また定めやらす。これも右はおもしろくにぎははしく、内裏わたりよりうちはじめ、近き世のありさまを描きたるは、をかしう見どころまさる。平内侍(へいないし)、

「伊勢の海の

ふかきころをたどらずて

ふりにし跡と

波や消つべき

世の常のあだごとのひきつくるひ飾れるにおされて、業平(なりひら)が名をや朽(くた)すべき」と、あらそひかねたり。右の典侍(すけ)、

Tronos ŝi<sup>2</sup> eĉ la palacon  
Kiel supro de l' ĉielo  
Eĉ abisman maran bazon  
Ŝi penetros kun fiero

Visterio asertis.

"Certe la intenco enpalaciĝi de la granda filino<sup>3</sup> de *Fjaŭve* estos alte taksata, sed ne malhonorigu la nomon de la kvinarangaj ĉiuŝaŭon *Narifira*."

Kaj ŝi utais.

Anktiviĝis jam l' rakonto  
Post jararo eĉ ĝis honto  
Sed perdiĝos historio  
Kun marborda vaga krio?

Tiamaniere ĉiuj virinoj debatis kun bruaj voĉoj pri eĉ unu rolaĵo, kies konkludo ne estis esperabla. Ne kleraj junaj ĉambelaninoj volis vidi la finon de la debato kun multe da intereso, sed ili ambaŭ, servantaj al Mikado aŭ al Visterio, ne povis rigardi eĉ parton de la pentraĵoj; Visterio tre severe kaŝis ilin.

### 7) *Suzaku donacas trezoran pentraĵon*

*Genĝi* venis en la palacon, kaj eksciis interesa, ke ili konkuras brue kritikante reciproke, kaj proponis.

"Do, konkuru antaŭ Mikado kaj vidu konkludon, se vi debatos ĉiuokaze."

Kaj la afero estis tiel decidita. Antaŭsupozinte tiun decidon, *Genĝi* elektis tre fajnajn bildojn, kaj adiciis al ili la du bildokajerojn de *Suma* kaj *Akaŝi*, kun lia certa intenco. Ankaŭ *Ĉiunagono* fervore preparis por defii. En tiu tempo furoris la kolektado de bonaj pentraĵoj sub la ĉielo.

"Ekpentri nove de nun estas aĉa ideo. Jam ekzistantaj estas decaj."

*Genĝi* opiniis tion, sed *Ĉiunagono* pentrigis en sekreta ĉambro kaŝe, malfermante nur fenestron. Ankaŭ eksmikado *Suzaku* aŭdis pri la konkuro de pentraĵoj, kaj multe donacis la konservitajn al la *niogo* Mumeo. (daŭrigota)

\*2,3 supozata ĉefrolulino en '*Ĵaŭsamvi*'.

雲のうへに  
思ひのぼれる心には  
千ひろの底も  
はるかにぞ見る

「兵衛の大君の心高さは、げに棄てがたけれど、在五(ざいご)中將の名をば、え朽(くた)さじ」

どのたまはせて、宮、  
見るめこそ  
うらふりぬらめ年へにし  
伊勢をのあまの  
名をや沈めむ

かやうの女言(をむなごと)にて、乱りがはしく争ふに、一卷(ひとまき)に言の葉を尽くして、えも言ひやらず。ただ、浅はかなる若人(わかうど)どもは死にかへりゆかしがれど、上のも、宮のも、片(かた)はしをだにえ見ず、いといたう秘めさせたまふ。

大臣参りたまひて、かくとりとりに争ひ騒ぐ心ばへども、をかしく思ひて、

「同じくは、御前にてこの勝負(かちまけ)定めむ」どのたまひなりぬ。かかる事もやと、かねて思ひければ、中にもことなるは選りとどめたまへるに、かの須磨明石の二巻(ふたまき)は、思すところありて取りませさせたまへり。中納言もその御心劣らず。このころの世には、ただかくおもしろき紙絵をととのふることを、天(あめ)の下(した)営(いとな)みたり。

「今あらため描かむことは本意(ほんい)なきことなり。ただありけむかぎりこそ」

どのたまへど、中納言は人にも見せで、わりなき窓(まど)をあけて描かせたまひけるを、院にもかかる事聞かせたまひて、梅壺(むめつぼ)に御絵ども奉らせたまへり。

(続く)

## Septembre, surstrate en Tokio

間宮 緑 (静岡県)

原作：加藤直樹 KOROCOLOR PUBLISHERS 発行

5判 208 ページ 2160 円 KLEG 取り扱い

『九月、東京の路上で 1923 年関東大震災ジェノサイドの残響』……すでに韓国語に翻訳され、今年、劇団「燐光群」によって舞台化された話題の本が、“Septembre, surstrate en Tokio: Granda Tertremo en la regiono Kanto 1923 - Postsono de Masakro” というタイトルで 9 月に出版されました。北海道自由エスペラント協会の宮沢直人さんが発起人となり始まったエスペラント翻訳プロジェクトで翻訳を担当しました。僕にとって初めて書籍化した翻訳です。

『九月、東京の路上で』は 1923 年の関東大震災直後に起きた、在日朝鮮人・中国人に対する大規模な虐殺事件を取り上げています。未曾有の被害を出した災害直後という混乱のさなか、「朝鮮人が家に火を点けて回っている」「井戸に毒を入れている」といった流言が東京をはじめ周辺地域にはびこり、流言を信じた民衆・警察・軍が、被災した大勢の朝鮮人・中国人を集団で虐殺しました。この朝鮮人虐殺とは、一か所で起きた事件ではなく、東京をはじめ、神奈川、千葉など広範囲の地域で多発した虐殺事件の総称です。各地で急増に組織された自警団はナイフや鳶口などの武器を持ち、朝鮮人と見るや問答無用で襲いました。また政府は保護と称して在日朝鮮人を收容所に隔離しましたが、そこでも残虐な殺人が行われました。

未だに全容が明らかにならず調査が続いているとはいえ、今から 95 年前の事件です。しかし『九月、東京の路上で』の初版が大きな反響を呼んだのは 2014 年のこと。なぜ今、この本が出版され、注目され続けているのでしょうか。

著者の加藤直樹さんは、2013 年、在日韓国人に対するヘイトスピーチデモに抗議しているとき、不意に 1923 年の虐殺事件を想起したといいます。そのきっかけは、差別主義者が掲げるプラカードに記された「不逞朝鮮人」という差別的な言葉が、虐殺事件当時に使われていたものとそっくり同じだった

ことでした。当時、新聞記事の見出しにはこれらの朝鮮人を蔑視する言葉が踊り、日本の植民地支配からの独立をめざす朝鮮人の活動は「不逞」と称され、朝鮮は日本に従って当然なのだという考えが日本社会に蔓延していました。日本社会で生まれる不満や怒りの矛先は仮想の敵“朝鮮人”へとそらされ、大災害をきっかけに民衆の間で爆発したその憎悪が、虐殺へと繋がっていきました。加藤さんは実際に事件が起きた場所を訪ね、当時の資料や証言などから「なぜ、どのようにして虐殺は行われたのか」を調べました。そして、二度とそのような事態を引き起こしてはならない、と、人種・民族差別やヘイトスピーチの高まりを黙認する現代社会に警告しています。

僕はあるとき「この虐殺とヘイトスピーチの問題は、東アジア人でない自分には関係がない」という意見に接したことがあります。しかし問題の本質は世界規模で蔓延していると思います。

当時虐殺に加担した人々の大きな共通点のひとつに「コミュニケーションの不在」があります。彼らは朝鮮人を憎みながら、朝鮮人とコミュニケーションを図ったことがありませんでした。第一に言語の壁が横たわっています。虐殺の中、自警団員は人を捕らえては脅して日本語を話させ、うまく話せないと「朝鮮人だ」と言って殺害しました。彼らは普段から、日本語を話せない、あるいは流暢でない人々を自分のコミュニケーションの枠外に追放し、何ら言葉を交わすことをしないまま、ひたすら敵意を募らせていたのです。

「コミュニケーション不在」の問題は、エスペランティストにとって特別なテーマではないでしょうか。ザメンホフがエスペラントを発想したきっかけが、故郷ジャウィストクにおける異なる言語を話す人々の間でコミュニケーションがまったく図られないことと、そこから発生する不和でした。エスペラントはコミュニケーションの新たな可能性として誕生したのだと思います。その可能性を知るエスペランティストの皆さんが、世界のあちこちでコミュニケーション不在のまま憎悪を募らせてゆく人種・民族差別に抵抗し、友好の架け橋になったら、世界はきっと表情を変えるでしょう。今回の翻訳がその助けになってくれたらと願っています。



## Monda Heredaĵo de Unesko

—la valoro ne nur rimarkinda, sed universala—

EGAWA Harukuni (Wakayama)

1092 mondaj heredaĵoj estas entute registritaj ĝis julio en 2018. Ili konsistas el 845 kulturaj heredaĵoj, 209 naturaj kaj 38 miksitaj en la mondo. Kion Unesko celas per ili ? Ĉu nur por turismo? La artikolo “Amikeco inter Pollando kaj Japanio” en Kajero Libervola (La Movado N-ro 812) montras al ni ankaŭ la koron de Unesko kiel universalan konsciencan, kiu vekas konsenton de homo al homo.

Dum longa tempo oni havis la koncepton, ke naturo kaj kulturo kontraŭstaras unu la alian. Sed origine ambaŭ estas en kompletiga rilato per homo. Ĉar diversaj identecoj de popoloj estas kulturitaj en ĉiu naturmedio, kie popoloj vivadas. Do, por pace vivi en la mondo, al ni necesas kompreni la rilatecon kompletigan inter naturo, kulturo kaj homo. Tial Unesko elmontras al ni tre rimarkindajn kulturajojn kaj naturojn en la nomo de monda heredaĵo kiel efikajn instruilojn por kompreni diversajn popolojn kun kultura fono. Malgraŭ kultura diferenco, funde de ilia koro troviĝas humaneco komuna en ĉiu reala vivado ; varti bebojn, labori energie por sia familio, kverelo inter geedzoj, momenta feliĉo post ĉagrenado, amo kaj malamo, ktp. Ili estas naturaj aferoj kiel homo, eĉ se homoj diferencas inter si pro landoj kaj kulturoj.

Grava estas la vidpunkto, ke per mondaj heredaĵoj, komunaj al homaro, ni devas profundigi interkulturan dialogon kaj samtempe kompreni homojn aŭ popolojn kreintajn ilin. Tio ankaŭ estas la sinteno trovi ilian humanecon egala kaj transnacia, kion Unesko nomas “la valoro universala”. La subtitolo, “la valoro ne nur rimarkinda, sed universala” estas plej grava ŝlosilo por elektota

monda heredaĵo. Tipajn ekzemplojn mi montru per la proverboj (el Proverbaro-Nia Komuna Heredaĵo). Eble vi trovos en ili la rimarkindan sed samtempe la universalan valoron.

Forĝu feron, dum ĝi estas varmega.(Japanio/Ĉinio) • Modlu argilon, dum ĝi estas malseka. (Arabo/svahiloj en Afriko) • Fleksu ŝoson, dum ĝia juneco.(Finnlando/Rusio) Draŝu grenon, kiam vento blovas.(tamiloj en Hindio) • Melku bovinon, dum ĝi senmove staras. (Anglio) • Levu akvon, dum ŝnurego estas en putu.(Francio)

Kiel interese! Inter la unikaj esprimoj de popoloj kun propraj kulturoj legeblas ia komuna humaneco el la proverboj; des pli bone, ju pli frue hardi, ekzerci kaj eduki infanojn dum juneco. Tio allogas nin al tia intimeco, ke ni estas egale samaj homoj, kiuj kunlaboru por nia feliĉo sen milito.

Laŭ la kondiĉoj de la monda heredaĵo, “rimarkinda sed universala”, “Esperanto” meritas Nematerian Mondan Heredaĵon kaj “La unua libro” kiel Memoron de Mondo, kiun povas decidi Unesko mem. Mi elkore deziras, ke ili estu registritaj, dum d-rino *Mechtild Rossler*, la filino de iama delegito nomata s-ro *Helmut Rossler* en la urbo *Speyer*, Germanio, laboras kiel la direktoro en la centro de Monda Heredaĵo de Unesko en Parizo.

### 原稿募集

La Movado の原稿を募集します。

書評、論評等は 1 ページ (23 文字 × 80 行)、Salono 欄は半ページ (23 文字 × 40 行) までです。エスペラント文の場合は、それぞれ 500 語、250 語。ただし、写真や図が入る場合は、その分だけ文字数、語数を減らしてください。

原稿は、郵送で KLEG 事務所、またはメールで <lamovado@gmail.com> へお送りください。

## “Antaŭ unu jarcento

### — La granda milito kaj Esperanto”

伊藤 俊彦 (愛知県)

Javier Alcalde kaj José Salguero (編)、SAT-EFK  
2018年刊、375p、2,300円、KLEG 取扱

本書のサブタイトルにある La granda milito (大戦争) は、英仏を中心とした第一次世界大戦の名称であるが、その呼び方自体、日本ではなじみが少ない。しかし、大戦は人々に大きな衝撃を与え、ドイツ、ロシア、オスマン、オスマンの各帝国は解体し、ロシアでは革命が起きて社会主義政権が成立した。大戦はまたエスペラント運動にも大きな影響を与えた。本書は、終戦から百年が経過した今、両者の関わりを多面的に検証しようとしている。

本書の第一部「戦争」では本書全体に関わる総括的な論文、大戦をめぐる記事、論文が、第二部「戦争とエスペラント」では大戦とエスペラントとの関わりをめぐる文書が、第三部「個人的回想」では6名のエスペランチストが語るパーソナル・ヒストリーがそれぞれ収録されている。

本書は、一人または数人の研究者による見通しの利いた歴史記述ではない。同時代人の書き残した記録や回想、現代の研究者による論文等々、1ページの記事から120ページ近い長大な手記まで、性質も量も異なるテキストを収録している。編者は本書の性格をモザイクと形容しているが、予め全体のデザイン、特定の観点からの評価があって、それに合うように個々のテキストをはめ込んだわけではない。むしろ、大戦とエスペラントとの関わりという巨大なテーマについて、可能な限り多面的な角度から照射しようとしているように思われる。

本書では、ザメンホフ、ランティ、ソロス、バギーという著名なエスペランチストたちがどのように大戦に対処したかも紹介している。パリで開催予定だった第10回世界エスペラント大会は、1914年8月2日、大戦の勃発により急遽中止となり、大会に参加しようとしていたエスペランチストたちは大混乱に陥った。ザメンホフもまた深い失意を抱いてワルシャワに戻り、1917年4月14日に、翌年11月11日の終戦を待つことなく死去した。本書はプリヴァの伝記から晩年の彼の生活と思想を論じたくだりを、そして、民族差別の撤廃を力説する「外交官への呼びかけ」を収録していて、今も新鮮である。

2018.11

ランティは、大戦中は北フランスで野戦病院の衛生兵を務めた(表紙に当時の彼の写真が掲載されている)。本書には、大戦中の日記(未公表)の一部が収録され、ナショナリズムが吹き荒れるなかでの彼の反骨ぶりをうかがうことができる。彼は1921年、SATを創立し、やがてソ連社会主義の鋭い批判者になるが、そうした姿勢の萌芽がすでに感じられる。

ソロスとバギーは、シベリアで長らく捕虜として過ごした。本書では、捕虜収容所からの脱走をテーマとするソロスの小説『現代のロビンソン』を中心に、トンキンが両者の文学のあり方を論じている。彼らは戦後、Literatura Mondoを創刊し、エスペラント文学の新たな地平を切り開くことになる。

その他、エスペラントによる戦争プロパガンダ、捕虜の処遇、UEAを通じての献身的な捕虜救援活動などに関する記録もある。また、ドイツ、フランス、イギリスなどの捕虜収容所で盛んだったエスペラントの講習の実態の詳細な報告もある。アジアについては、日本・中国・韓国の共同研究に基づく歴史記述が収録されていて、日本が東アジアにおけるドイツの権益を奪取しようと参戦し、5・4運動や3・1独立運動が勃発する経緯が述べられている。

本書は容易に読み尽くせる本ではない。ただ、そもそも同時代人にとって戦争の帰趨は見当もつかず、現実には混沌そのものだった。そうした彼らの戦争体験に思いを馳せながら本書を読むと、さまざまな想像をかき立てられる。特に第三部の回想では、庶民たちが20世紀の激動の時代をどう生きたかを語っていて興味が尽きない(ブロンシュテインも登場し、知人について語っている)。

編者のJavier Alcaldeは、1978年、バルセロナ生まれの若手の政治学者で、第103回世界エスペラント大会(リスボン)の大会テーマの決定に関わった。彼の論文「平和への努力 — エスペラントの実践的国際主義」は、フェミニズム、キリスト教的エキュメニズム、兵役拒否などの運動とエスペラントとの密接な関わりを論じて深い感銘を与える。彼は論文の結びで、大戦はエスペラントの理念に大きな打撃を与えたが、その後の戦間期には、国際連盟やプロレタリア運動などで新たな隆盛をもたらしたと指摘している。それについて論じることは彼の言うとおりの別物語であるが、その後の展開を思い浮かべつつ本書を読めば一層興味が増すだろうと思う。

## 佐々木安子さん追悼

### EVAの活動、精力的に取り組む

矢吹あさ系（吹田エスペラント会）

吹田エスペラント会の活動を故木下忠三さんが一人で支えていた時期に、ほってはおけないと木下さんを講師に佐々木安さんと松田洋子さんが“Marta”を読む勉強会を始めた。佐々木さんは、機関誌 La Vento を復活させ、会員名簿、アンケート、講習会参加者名簿など煩雑な事務を一手に引き受け、吹田エスペラント会を徐々に一人前の地方会に整えていった。会員を増やそうと入門講習会開催にも熱心だった。

1987年にポーランドのワルシャワで開かれた「世界大会 — エスペラント発表 100周年記念大会」に参加しようと、入会して間のない大畑賀代子さんを熱心に誘い連れていったことも。

また、佐々木さんは、1990年の鶴見緑地での「国際花と緑の博覧会」をきっかけに人形劇グループ「チエーロ」を立ち上げ、人形制作、舞台づくり、台本づくりにと積極的な活動を開始された。わざわざプロの人形劇団クラルテに習いに行くほど研究熱心で、北千里の公民館祭りや関西エスペラント大会では、「チエーロ」の上演が数年間続いた。

さらに、EVA (Esperanta Virina Asocio エスペラント女性協会)の活動にも取り組まれた。EVAは、関西連盟の事務所で学習していた女性たちが、職場、家庭の話題から自然に平和問題とエスペラント、婦人問題を語り合うようになり、それが発端となって

できた女性グループだが、国内だけでなく外国に住む女性エスペランチスト、外国人エスペランチストとの文通を通して女性にかかわる問題を考えるように発展。50年も活動が続けられた。佐々木さんは、晩年、この活動



人形と佐々木安子さん

の歴史を冊子『EVA50年の歩み』にまとめることに精魂を注がれ、2009年にKLEG賞を受賞された。

この冊子をまとめられる少し前に家の中で踏み台から落ちて大腿骨を骨折され入院されたことがあった。手術後のリハビリも熱心にされ見事に回復された。このリハビリと、冊子をまとめられた80歳半ば過ぎの強い意志と精神力に、私たち吹田エスペラント会のメンバーは驚かされた。

大畑さんと私は、2016年7月に佐々木さんをケアハウス（前年の10月に転居）に訪ねた。ご主人が声を掛ける度に、微笑んで優しいまなざしを向ける佐々木さんの姿が今でも鮮明によみがえる。



1999年人形劇「山椒魚戦争後日談」中央が佐々木さん

#### 初心者のための

#### 語尾なし単語の使い方 (71)

相川 節子

#### 関連詞 (3) io

「何か」「或る物」という意味の単語です。先にとりあげた tio、kioと同じように、全体を包括的にさす単語なので、原則として複数にはなりません。何かわからない物、あるいは何であるか決まっていない物をさすことが多い。できごとや状況をさすこともできると思いますが、実例を思い出せません。“En la kaĝo estas io malgranda.” “Tio estas hamstro. Ĝi nun dormas.”

(「ケージの中に何か小さいのがいる」「それはハムスターです。今眠っています」)

En la kristnaska festeno ĉiu kunportu ion por donaci. Ni interŝanĝos la donacojn.

(クリスマスパーティにはそれぞれ何か贈り物を持ってきてください。贈り物の交換をします)

では、ザメンホフの演説からの実例を。

En tiu ĉi solena momento mia koro estas plena de io nedifinebla kaj mistera...

(この荘厳な時に、わたしの心は説明できない不思議な何かに満たされています)

元は長文なので、関心のある方は第一回世界大会の演説をお読みください。



## お会いしたかったあの人

西 千寿子 (京都府)

多田浩子さん、1902年生。伺うところによれば昭和10年代前半にはすでに国際文通をなさっていたとか。1953年、北さと

りさんから誘われてエスペラント婦人協会(のちに女性協会に改称)に参加、機関誌EVAの発行に際しては海外からの手紙の翻訳などで活躍された由。

1965年の日本での世界大会で、文通相手の方々と出会うことができ、以後自身でも世界大会参加への意志が生まれたとか。1966年には枚方エスペラント会の立ち上げにも参加。1973年70歳ころまでタイピストとして働きながらコツコツ貯金、退職後いよいよ大会への参加が始まったもよう。

それまでに朝日新聞投書欄「ひととき」に幾度もエスペラントのあれこれを投稿したことで、「ひととき会」に入ったとか。そして彼女の世界大会参加の表明を聞いた全国の「ひととき会員」から支持やカンパを受けたこともあり、そのお礼や報告を兼ねて、1976年に自費による『ハンブルグからアムステルダムまで私のヨーロッパ紀行』と題する冊子を都合400冊出し、アチコチに配ったが、大半がエスペラント関係外の人だったとか。大阪エスペラント会にも幾冊か渡ったようだが、どなたかお持ちじゃないだろうか。

1979年7月、彼女の77歳で5度目の世界大会参加に際して、朝日新聞が取材して記事にしている。

惜しくも1992年7月、90歳で逝去された。

多田さんに関する以上の内容は“La Movado”の記事と『関西エスペラント連盟65年史』から拾い集めた。

実は私がエスペラント界に入ろうと思ったきっかけが、この朝日新聞の記事。ご本人が辞退されたのかなと思うが、写真がなかったと記憶。読んだ直後は、エスペラントを覚えれば、英語苦手の私でも遠いカナダのあの島で、在住のエスペランティストに案内してもらって周遊が可能になるかも、と思っただけだったが、縁あって1年後習い始め、15年後カナダ訪問が実現した。

しかしある時まで、多田さんのことはすっかり忘れていたので、関西大会でお会いする機会もあっただろうに、今となっては惜しまれてならない。

2018.11



## 高知の Kleemann 夫妻

ドイツのクレマン夫妻が8月31日(金)午後高知駅到着。五台山展望台から高知市街を眺望、五台山竹林寺(四国霊場第31番札所)、郊外のレストランで夕食。9月1日(土)佐川町青山(せいざん)文庫、藩校「名教館」、竹村家住宅ほか、いの町「紙の博物館」、江崎瑞枝さん宅でバンケード(6人参加)。9月2日(日)午前JRで鳴門へ。

写真は、「紙の博物館」で版画の制作体験をするクレマン夫妻。 [←鍋島博之]

## 第4回とよなか国際交流フェスタ

9月8日(土)10時~16時、豊中エスペラント会はとよなか国際交流センター(阪急豊中駅前「エトレ豊中」6階)の国際交流フェスタに、ステージ発表とポスター発表で参加した。 [←山野敏夫]

## 第35回エスペラント一日公開講座

10月27日(土)13時半~16時、エスペラント会館4階教室(地下鉄東西線早稲田駅出口1)。参加費:600円、400円(学生、障がい者)。主催:都区内エスペラント会連絡会(池袋、新宿、杉並、調布、西日暮里、目黒、三鷹武蔵野の各会とロンド・コロノ)。

第1部 講演「エスペラント — 自分を表現する言葉を求めて」、講師 佐々木照央さん。第2部 速習講座「エスペラントはこんな言葉」、講師 犬丸文雄さん。第3部 エスペラント講演「私と日本文化」、講師 佐藤ヴィエニアさん、通訳 菊島和子さん。

問合せ、申込み先:東海林敬子 03-3827-7049 または tokunai@1.nifty.jp。 [←東海林敬子]

La Movado 813

## 9月の土曜エスペラント会

9月8日 JEI 会館で開催し、出席8人。「広島訪問」「世界大会参加とビヤリストークへの旅」「浮指(うきゆび)」と今回はテーマ数こそ少なかったが、どの発表も写真や動画、それにホワイトボードでの図解により大変興味深いものとなった。活発な質疑応答もあり、2時間半をエスペラントで楽しく過ごした。

土曜エスペラント会は原則毎月第2土曜日の午後(15時15分～17時45分) JEI 会館で開催。

問合せ先：山川修一 <shu@gol.com>

## 九条の会でエスペラントの講演

9月9日、前橋大根九条の会で、堀泰雄が世界エスペラント大会などで集めた「平和メッセージ」について講演した。22人参加。 [←堀 泰雄]

## 来年の関西エスペラント大会

9月8日午後、第一回実行委員会を南宇治コミュニティセンターで開催。7人出席。委員会のメンバーを決めた。委員長は蒲豊彦さん。

## 棗庄学院 第一期正規エスペラント科入学

中国政府の設置許可を経て、棗庄学院は2018年より正規の4年制大学学部エスペラント科の募集を開始した。初年度、山東省内から入学を許可された25名の学生が集まり、9月8～9日中に入学手続きを終えた。手続き後、中国の新入生の恒例行事である軍事訓練に汗を流した。 [←佐藤 隆介]

## グローバルフェスタ(東京お台場)

9月29日、30日(土日)の予定が台風のため29日のみ開催。多数のボランティアが協力し、日本エスペラント協会ブースの「エスペラント語5分講座」は雨でも盛況、ワークショップ「世界の言葉にアクション」も十数人が参加した。 [←北川 郁子]

## ロンドンの活動

**池田エスペラント会**：11月2日～4日(金土日)

IKEDA 市民文化 DAY に参加し、池田駅前の商工会議所でパネルを展示する。また11月24日(土)冬の季語で俳句の会を開く。 [←島谷 剛]



**京都エスペラント会**：8月18日(土)、京都エスペラント会が滋賀県大津市の叶匠寿庵・寿長生の郷(すないのさと)で食事会を行った。出席者は土曜クラスを中心に8人。日本料理を味わいながら歓談した。

## 各地のザメンホフ祭

**名古屋エスペラントセンター**：12月1日(土) 14時～17時半：第一部(会費500円。紙芝居「MEIKO」、本の紹介、単語ゲーム、エスペラントの歌など)、17時半～19時半第二部(会費3500円。懇親会、和食仕出し・ワンドリンク付。要予約)。

**第26回エスペラント祭(都区内連絡会等)**：12月8日(土) 13時半～16時50分、IKE・Biz としま産業振興プラザ 6階 多目的ホール(昨年と同じ。池袋駅 西口徒歩10分、南口徒歩7分)。会費1000円、500円(学生、障がい者)。主催：都区内エスペラント会連絡会等。主なプログラム：講演、新人紹介、本の紹介、ポケットフルート演奏、テーマ別懇談など。問合せ先：電話 03-3982-2243(千葉俊介)、電子メール：tokunai@1.nifty.jp

**北摂(池田・吹田・豊中)**：12月9日(日)とよなか国際交流センター(豊中駅前「エトレ豊中」6階)。

**宮崎エスペラント会**：12月23日(日) 14時より、宮崎市民プラザ4階小会議室2。

# Vortkruca enigmo

## Redakcio

Vicigu adekvate 7 literojn trovitajn en la kvadratetoj kun steleto. Tiam vi akiros ilon, per kiu oni sekure fermas pordon aŭ ujon.

Sendu la trovitan vorton kiel solvon de la enigmo ĝis la 20-a de novembro, paperpoŝte al la oficejo de KLEG, aŭ retpoŝte al <lamovado@gmail.com>.

Rimarko: (x) signifas, ke la vorto ne portas finaĵon.

1	2	3	4	5		6	7
8			*			9	
	*	10			11		
12	13		14				
15	*	16			17		18
	19			20		21	
22		*	23			24	
25			26		*	27	28
29					30		

**Horizontale:** 1. Birdo, kiu simbolas pacon.(x) 6. Ni nun estas pretaj. Ni ~ ekiru!(x) 8. UEA estas mallongigo de Universala Esperanto~o.(x) 9. "La infana ~o" estas poemo verkita de *Auld*.(x) 10. La plej supra parto de domo.(x) 12. De tempo ~ tempo pluvus hodiaŭ.(x) 14. La ĉambro estas ~ita bele kaj oportune.(x) 15. Infanoj ~as en ~ejo.(x) 17. Iu ~is mian monujon en la homoplena vagono.(x) 19. Pronomo malofte uzata anstataŭ "vi".(x) 20. Timemulo timas eĉ ~an propran ombron.(x) 21. Mi elkore deziras vian ~saniĝon.(x) 22. *Beethoven* verkis naŭ ~ojn.(x) 25. Lingvokodo de Esperanto laŭ internacia normo.(x) 26. Sufikso montranta instrumenton aŭ rimedon.(x) 27. Flatu la patrinon, ~ vi volas la filinon.(x) 29. Mi ~is

paston por baki panon.(x) 30. Zebro havas ~ojn sur la korpo.(x)

**Vertikale:** 1. Artefarita akvovojo.(x) 2. Gramatika finaĵo de verbo.(x) 3. La rabistoj dividis la predojn per ~o.(x) 4. Pacifiko kaj Atlantiko estas ~oj.(x) 5. Hirundo estas ~anta birdo. 6. malsekura.(x) 7. Li estas ĝis~a esperantisto.(x) 9. Perioda enspezo de la luanto de domo aŭ grundo.(x) 11. En la fabriko funkcias multaj ~oj.(x) 13. La kurso de Esperanto konsistas el 10 ~oj.(x) 16. En poemo gravas ritmo kaj ~o.(x) 18. Ŝi laŭt~is la mesaĝon de la urbestro.(x) 20. Ununura.(x) 22: En bona vetero lavitaj tolaĵoj tuj ~iĝas.(x) 23. Kredi ies honestecon, aŭ taŭgecon de io.(x) 24. Esperant~o estas persono, kiu uzas Esperanton.(x) 28. Sufikso montranta pecon.

## La solvo al la septembra enigmo: TUNELO

La ĝustan solvon donis 15 legantoj:

水渡 篤子、濱田 國貞、CA、中村 文雄、西 千寿子、sayuri、TADA、久保田 俱視、Grebo、松川 まきこ、前藤 寛、本田 照美、にし のりこ、平井 倭佐子、Kacu

K	O	N	T	I	N	E	N	T
A	V	E	R	T		K	U	R
P		P	I	A	N		D	U
I	N	T		L	I	C	E	
T		U	M		K	A	L	I
U	R	N		P	E	R		N
L	U		I	E	L		E	T
A	B	E	L	O		A		E
C		L		N	A	T	U	R

## 楽しい作文教室 (87) 成績

10 人の方から応募がありました。( ) 内は留意事項です。

うん、良いね : ikona.

良いね : T.Ku( ② sceno), AG, CA( ② -ig), Celejo( ② intersas), Eiko( ② koton), haveno, Ivajo( ③ kaptontan), Fumi( ④ 対格、時制)。

もうひといき : festo( 綴り、時制)。

## Mikspoto (当欄は敬称略)

★講談社から10月1日発売の「コミュニケーションロボット ATOM」(<http://atom2020.jp/>) はエスペラントを含む62言語の挨拶を教えてくれる。ラジオ体操と一緒にしてくれる機能も。[←山野敏夫]  
★週刊金曜日1198号(8月31日)に長谷川テルの記事。「米騒動“女の一揆”から100年 女の怒りが歴史を変える！」(鈴木裕子)に並んで「社会を変え、道を拓いた知られざる女たちの『暦』」という記事があり「エスペラントを操る反戦運動家・長谷川テル」が紹介されている。[←野々村耀]  
★紀伊国屋書店のPR誌『SCRIPTA』の平出隆の連載が単行本『私のティーアガルテン行』(紀伊国屋書店)になった。「烏森様のこと」で『エスペラント運動人名事典』等に触れている。[←後藤 斉]

### Kurantaj Vortoj

ヴィーガン vegano(絶対菜食主義者)  
費用対効果 efiko dividita per kosto  
拡張現実 pliigita realo  
仮想現実 virtuala realeco  
3Dプリンター tridimensia presilo  
積層造型法 adicia fabrikado(上記の仕組み)  
土砂崩れ terlavango  
土砂ダム terlavanga digo  
火山灰 vulkana cindro  
心肺停止 haltigo de koro kaj pulmo  
抹茶 pulvora teo  
抹茶アイス glaciajo(gelato) de verda teo  
(ŝatata frandaĵo de Oosaka Naomi)  
アーティスティックスイミング arta naĝado  
(2017年にsinkrona naĝadoから名称変更)  
フィギュアスケート arta sketado  
棒高跳び stanga altsalto, stangosalto  
持続可能な開発目標(SDGs) Celoj por Daŭripova Evoluigo(国連の標語)  
ゴブリン gobleno(いたずら好きの妖精)  
コボルト koboldo(いたずら好きの妖精)  
ニクス nikso(ゲルマン神話の水の精)  
人工透析 sangodializo, hemodializo

## KLEG 事務局だより

★9月号で切手の寄附を呼び掛けたところ、桜井信夫さんから多額の切手を寄贈していただきました。Dankegon!

★ザメンホフ祭で購入したい書籍・CDがありましたら、できるだけ早く事務局にご連絡ください。取り寄せます。  
★日本郵便(株)から郵メール料金(特別)の値上げの申し入れがありました。厚み2cm以下、重さ500g以下の場合、12月1日から120円となります。詳細は、事務局にお問い合わせください。

### KLEG 後援会へのご寄付

(2018年8~9月、敬称略)

桜井 信夫 (1)	40,430 円 (注)
桜井 信夫 (2)	11,956 円 (注)
伊藤 照子	10,000 円
匿名	10,000 円
大川 純平	4,040 円
野々村 耀	2,000 円
犬丸 文雄	1,200 円
梁池 忠夫	1,200 円
國井 兵太郎	1,000 円
上月 富佐子	600 円

(注) 切手による寄附。

ご支援、ありがとうございます。

### 楽しい作文教室1月号課題(11月20日締切)

- ①長い間彼に会っていない。
  - ②彼はいつも忙しい。
  - ③2日おきに夜間に勤務する。
  - ④夜の勤務は17時に始まる。
- (ヒント) 忙しい okupita、当直する deĵori. longe, ĉiu, komenci を調べましょう。

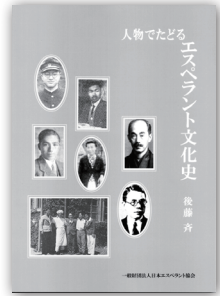
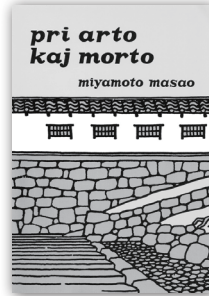
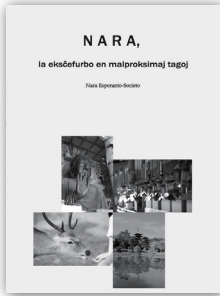
日本語の原文の内容が、相手にはっきり伝わるように考えて訳してください。

送付先:

[郵送] 〒674-0092 明石市二見町東二見 515-1-811 塚本 猛

[電子メール] [c\\_tak@esperanto.ne.jp](mailto:c_tak@esperanto.ne.jp)  
(件名に「作文」の文字を入れてください)

添削は受け付けておりませんのでご了承ください。



★ 新刊・新着 ★

**NARA, la eksĉefurbo en malproksimaj tagoj** 1800円

奈良エスペラント会による古都奈良の案内書。原始から現代まで奈良の歴史を点描。第2回日韓共同開催エスペラント大会記念品。日本エスペラント図書刊行会。A5版、98p。

**Septembre, surstrate en Tokio** 2160円  
加藤直樹『九月、東京の路上で』エスペラント版。関東大震災時の朝鮮人虐殺を描くノンフィクションを間宮緑が翻訳。現代に残響する忌まわしい声に抗う。A5版、208p。

**Esperanto 日本語を話すあなたに** 864円  
藤巻謙一著。日本語と比較しながらエスペラントを概観する。新しい視点で学ぶエスペラント。新書判、192p。

★ 宮本正男の作品 ★

**Pri arto kaj morto (第2版)** 1000円  
山上憶良、大伴家持、世阿弥、千利休、芭蕉、写楽、歌麿、晶子の芸術と生の軌跡を描く。

**日本文学に現れたエスペラント** 800円  
大江健三郎、中野重治、山本有三らの作品に描かれたエスペラント。年譜など付録も充実。

**Vivo kaj verkoj de Miyamoto Masao** 800円  
没後10周年記念追悼文集。Auld, Benczikら執筆。

**La obstino** 800円  
宮本正男の中島敦「山月記」「名人伝」「李陵」。

**エロシエンコ短編集** 1188円

「枯葉物語」など宮本対訳による3編を収録。

★ 在庫から ★

**はじめてのエスペラント [改訂新版]** 2160円  
藤巻謙一著。初歩からの独習に好適。音読CD付。

**まるごとエスペラント文法 [改訂新版]** 2160円  
藤巻謙一著。きっちりみっちり学べる文法書。

**エスペラント中級独習** 2160円  
藤巻謙一著。豊富な練習メニューを満載。CD付。

**エスペラント文法の散歩道 [改訂新版]** 1000円  
小西岳の文法論。「kaj et sed」「la」の用法他。

**人物でたどるエスペラント文化史** 1620円  
後藤斉著。柳田国男、村田正太、土井英一、井上万寿蔵らエスペラント史をいろいろ人物の軌跡。

**Tamen ĝi moviĝas!** 1600円  
UEA 文芸コンクール Eseoj の部入選作からエスペラント運動に関する論文を12編収録。

ご注文は郵便、ファクス、電子メールで。送料は実費。現品と一緒に請求書を送ります。支払いは振替口座で。

**編集ノート**

★ Zamenhof 祭の予告を一部掲載しましたが、ほとんどの rond は、まだ予定が決まってはいないと思います。Zamenhof 祭の会場が取れて、日程が決まりましたら、すぐに“La Movado”編集部 <lamovado@gmail.com>へお知らせください。

本誌が間に合わない場合も、関西エスペラント連盟のウェブページ (<http://www.kleg.org>)へ掲載します。

(島谷 剛)

発行所：ラ・モバード社 編集：相川節子 発行人：染川隆俊 定価280円 送料62円 1年3800円 送料共本局：一般社団法人 関西エスペラント連盟内 561-0802 豊中市曾根東町1-11-46-204  
電話 (06) 6841-1928 ファクス専用 (06) 6841-1955 電子メール：esperanto@kleg.jp  
振替口座 00960-1-60436 「一般社団法人 関西エスペラント連盟」 ホームページ：http://www.kleg.org  
九州支局：九州エスペラント連盟内 859-0407 長崎県諫早市多良見町シーサイド2-190 盛脇保昌方 電話 (0957)43-4352  
中国四国支局：中国四国エスペラント連盟内 771-0371 徳島県鳴門市北灘町榎木字観音面14-1 木谷奉子方 電話 (088)688-1098